

「所長就任にあたって」

国際日本学研究所長
横山 泰子



本研究所は、文部科学省21世紀COEプログラムに「日本発信の国際日本学の構築」が、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア部門）に「国際日本学の総合的研究」が同時採択された2002年に設立されました。同プログラムが終了した2007年からは、学術研究高度化推進事業に採択された『異文化研究としての「日本学」』プログラムによって研究活動を推進、2010年度から文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「国際日本学の方法に基づく<日本意識>の再検討—<日本意識>の過去・現在・未来」（研究期間5年）に採択されたことにより2015年3月31日まで継続しました。

以上の研究プロジェクトに加え、2010年度文部科学省「国際共同に基づく日本研究推進事業」に本研究所の研究課題「欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究」（研究期間3年）が採択されました。日本仏教美術関係資料（仏像、仏画、法具、お札など）を所蔵する欧州の博物館、美術館を対象としてENJAC（European Network of Japanese Art Collections）ならびにチューリッヒ大学東アジア研究所日本学部門との連携の下で、それら資料の総合的な調査と分析を行い、データを広く公開しています。2013～2015年度は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）海外学術調査採択「在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信」（研究代表者：ヨーゼフ・クライナー、研究分担者：小口雅史他）、さらに2016年度からは同「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」（研究代表者：島谷弘幸、研究分担者：小口雅史他）によって維持・拡充が続けられています。

これまで法政大学憲章に即した研究活動として、環境・自然・風土といった問題などに目を向けた研究を行っていましたが、2020年現在、本学の理系研究組織であるエコ地域デザイン研究センターと協力し、「江戸東京研究センター」の調査研究活動にも取り組んでいます。私は2018年度・19年度と江戸東京研究センター長をつとめました。その経験を生かし、新しい国際日本学の構築を目指しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2020年4月

1 国外研究機関との研究連携 国際シンポジウム等開催

フランス・アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）と継続的な共同研究事業を行っています。これまで「中心と周縁—搾取に抗う環境・自然」「人間の試練にさらされる〈自然〉」等のテーマで、ヨーロッパの研究者と国際シンポジウムをアルザスにて開催し、研究成果を刊行物にしてきました。近年は個性的な日本研究を展開しているヨーロッパの若手研究者に、研究内容はもちろんのこと、研究環境についても語ってもらうワークショップを実施しています。2019年のワークショップでは、ドイツ、イタリア、ギリシャ、スペイン、フランスからの研究者が集い、社会科学分野での日本語教育の現状と問題点、日本を対象とした社会科学の意義と可能性を論じました。この研究事業はかねてから「国際日本研究」コンソーシアム（CGJS）の助成を得てきましたが、2020年からはCGJSの日本人若手研究者派遣のプログラムがここに結合され、本事業は、日欧の若手研究者が参集し、研究の諸問題を論じ合う「国際新世代ワークショップ」に衣替えています。2019年にはコートジボワールのフェリックス・ウフエ・ポアニ大学政治経済研究センターとともに、国際セミナー「発展途上のアフリカ諸国における社会経済的変革と日本」も行いました。今後も国内外研究機関と連携しつつ、こうした国際的な研究事業をすすめていきます。

2 国内の研究活動『新しい「国際日本学」をめざして』研究会開催

設立以来、メタサイエンスとしての国際日本学（国際日本学とは何か）を追い求めてきた本研究所の事業が社会的に認知されるようになり、研究対象とする時代や地域、分野を広げる段階に入りました。具体的には近年の例として「17・18世紀カンボジアから日本への友好の書簡」「米・舍利・宝珠—中世日本の密教における米粒のエージェンシーとネットワーク」「東京大空襲を考える」「心とはいかなるものか？—古代日本人の形而上学的思想—」等があり、歴史学系、哲学系、思想史系からさらに文学系にまでわたる複合的な分野を扱う研究会を開催し、地域も東南アジアにまで広がってきました。加えて新たな研究にも挑戦します。経済学、政治学、社会学、人類学を主な対象とするSocial Science International Japanese Studies（SSIJS、国際日本学における社会科学）の観点からの研究は、特殊日本的と思われがちな日本の現象を普遍化する可能性があります。対象を日本としながらも、他の国や地域で同様の現象を発見する研究にも力を注いでいく所存です。

3 法政大学江戸東京研究センターにおける研究

文部科学省による「私立大学研究ブランディング事業」に法政大学が採択され（2017年度）、江戸東京研究センターが設立されました。以来、本研究所の文系の研究者は、理系の研究所である法政大学エコ地域デザイン研究センターと協力し、文理融合型の江戸東京研究を行っています。

詳しくは<https://edotokyo.hosei.ac.jp/research>をご覧ください。

本賞は、欧州を中心とする海外での日本学研究の発展に大きく寄与されているばかりか、本研究所においても「国際日本学」研究の立ち上げ以来多大な貢献をされている、ヨーゼフ・クライナー博士の学問的業績を顕彰すると同時に、海外での優れた日本学研究者を奨励し、「国際日本学」の発展に資することを目的として設けられました。

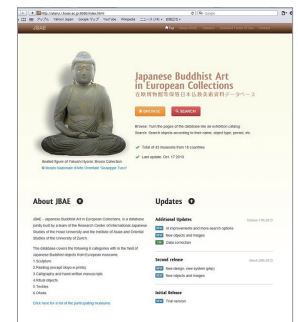
海外在住、もしくは海外に研究拠点をもつ若手研究者を対象とし、これまでに3名の研究者が受賞しています。



第1回授賞式・記念講演会
① 右より：田中優子総長、ティネッロ・マルコ氏、小口雅史所長（当時）
② 基調講演：ヨーゼフ・クライナー氏

在欧博物館等保管日本仏教美術資料データベース（JBAE）

- 本研究所は、2010年、文部科学省が公募した「国際共同に基づく日本研究推進事業」において、「欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究」というテーマでの研究が採択されました。
- これは、在欧日本仏教美術を研究することによって、そこから欧州における日本観を抉り出そうという意欲的なものでした。この企画は2013年3月に終了し、日本学術振興会からはA評価をいただくなど、成功裡に終わりました。
- その後も研究・データ蒐集は続けられており、これまでに集めた膨大なデータは、本研究所のサーバーを通じて公開されています。このデータベースには、原則として画像が添付され、研究上必要な詳細なデータが付されています。
- これまで在欧日本仏教美術作品についてこれだけの規模で総合的に蒐集したデータベースはなく、世界でも唯一、法政大学国際日本学研究所だけに存在しています。今後、このデータベースが活用されて新しい研究が生まれていくことを期待しています。



在欧博物館等保管日本仏教美術資料データベース（JBAE）のホームページ
<https://aterui.ws.hosei.ac.jp/jbae/>